

神戸学園都市 YMCA こども園 9月えんだより

9月の聖句「主において常に喜びなさい。」

フィリピの信徒への手紙 4章 4節

気象庁によると、今年の夏は「125年間で最も異常で圧倒的な暑さ」だったようですが、今年の夏は…。近年、暑さを表す言葉として「酷暑日」という言葉をよく耳にするようになりました。最高気温が40度を超えると「酷暑日」、35度を超えると「猛暑日」、30度を超えると「真夏日」、25度を超えると「夏日」と決められているようです。この中の「猛暑日」という言葉が使われるようになったのは2007年、「酷暑日」という言葉が使われるようになったのは2022年からだそうです。「熱中症警戒アラート」という言葉は、今年の4月から環境省と気象庁で運用が始まったようです。セミの声は聴くことが少なくなり、赤とんぼが飛び交う姿が見られるようになりましたが、まだまだ厳しい暑さが続きそうです。暑さと上手に付き合いながら、夏から秋への変化を楽しめればと思います。

もう30年余り前、長男が生まれて間もない頃のことですが、当時は有効な治療薬がなく、徐々に進行して死に至る病を患ったことがありました。病か寿命、どちらが先に来るかはわからないというものでしたが、その事実を知った時には頭が真っ白になったのを今でも鮮明に覚えています。当時はYMCAのキャンプ場の責任者をしていたので、夏はキャンプ場に何日も泊まり込んでいました。夜、キャンプ場の寝室でひとりになると、いろいろなことを考え、眠れないときもありました。そのような時がしばらく続いた後、「思い煩うな。」という聖書の御言葉、そして、「御心のままに」という言葉が徐々に自分の中で大きくなっていったのです。当時まだ、洗礼を受けていなかったのですがこの時に洗礼を受ける決心をしました。いつ果てるかもしれない自分の命ですが、なすべきことがあれば現世に。役割を終えれば御国に。それは神様が決められることと、心の底から思うようになりました。不治の病（当時）の中で神様の平和をいただいた大きな喜びとなりました。その後、有効な治療薬が開発されたことで不治の病は過去のものとなりましたが、思い煩うことなく、御心のままに歩むことは今も続いているように思います。

先日、ある研修会で、現在、NHKで放映されている「家族だから愛したんじゃなくて、愛したのが家族だった」のモデル、岸田ひろみ美さんの講演を伺う機会をいただきました。わが子の障がい、ご主人の急逝、ご自身の大病の後遺症（半身不随）。「良く乗り越えられましたね。」と声を掛けられるそうですが、「乗り越えていないが、歩み続けている。」と仰っていました。また、出来事（車いす）があつて結果（不幸）が決まるのではなく、受け取り方（車いすになったが故の新しい出会いや発見を喜ぶ）で結果（不幸ではない）は変わるというお話もされていました。

毎日の歩みの中で起こる様々な出来事の一つ一つは、うれしいことや悲しいこと、楽しいことや辛いことが入り混じっていますが、いつも神様がそばにいてくださることを喜び、その喜びの中での受け取り方の先にある結果を大切にできる歩みを続けていければと思います。

9月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	あそぼう・おもしろそう	のびのびと・深める
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> 聖書のお話に触れ、親しむ 興味が広がり、のびのびと体を動かす 保育者との関係が深まり、自分の思いを安心して出しながら遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 暑い夏を守られたことを神様に感謝する 遊びや活動を通し、友だちと互いの思いを聞きあいながらイメージを共有する。 夏から秋の自然を感じながら、心を開放し、気持ちよく身体を動かす。
讃美歌	「 どんどこどんどこ 」 こども改 106	「 うたいましょう 」 こども改 126